研 究

「愛着 - 養育バランス」尺度短縮版の作成と 信頼性・妥当性の検討

―乳幼児健診での<気になる>母親との関連から―

武 田 江里子

[論文要旨]

母親の養育者としての発達を測定する尺度として開発した「愛着 - 養育バランス」尺度を乳幼児健診でのリスク群の抽出に役立てるため、短縮版を作成し信頼性と妥当性を検討した。対象は乳幼児健診を受診した母親であり、短縮版作成で1,690名、短縮版の信頼性・妥当性の検討で716名であった。短縮版作成は、因子ごとの逸脱点数に対する感度・特異度および IT 相関の結果から各因子 2 項目ずつ選出した。選出した12項目のクロンバックの α 係数は0.81であった。尺度点数を健診時の<気になる>母親とそれ以外の母親で比較し、6 因子すべてで有意差が認められたことより妥当性が確認でき、リスク群の抽出に役立つ可能性が示唆された。

Key words:愛着,養育,尺度,気になる母親

I. 緒 言

乳幼児健診では、従来の疾病のスクリーニングの意義より子育で支援、虐待予防の視点が重視されてきている現状がある¹⁾。しかしながら、社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会による子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第9次報告)²⁾を見ても、虐待相談対応件数は減るどころか増加の一途を辿っている。親の精神状態が子育でに影響することおよび母親の精神面への支援の必要性についてはすでに言われてきていることであり^{1,3)}、健診だけでなく各種相談や訪問等で親に対する支援は行われている。支援者側の意識としても、支援の際に必要とする情報として「母子の情緒と状態」には着目しており⁴⁾、主たる養育者である母親に対しての支援には力を入れていることがうかがえる。望月

ら³の調査によれば、被虐待児の保護者特性として「育児の自信がない」母親が半数以上占めていた。つまり、母親の育児不安を軽減させ、母親が育児に自信を持て、母親が楽しく育児することに繋がっていくような支援が、母親と子どもの両方に必要と言える。

「健やか親子21」では、4つの課題について2014年までに達成すべき目標値を提示し取り組んでいる。その中の課題4では「子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減」があげられており、母親の育児不安の軽減は日本の母子保健にとって重要課題とされている。2010年3月に発表された第2回中間報告50では、第1回中間報告に比べて良くなっている項目は70.8%であった。しかし、課題4では良くなっている項目は66.7%で全体の70.8%よりやや低い値であり、その中の子育てに自信の持てない母親の割合は減少傾向を示してはいるが微減である50。行政でも民間でも多くの

Creating a Compact Version of the "Attachment-Caregiving Balance"

Scale & Evaluating Reliability and Validity

受付 14. 2.28

[2614]

— Based on Relevance to "Mothers Who Causes Anxiety" at Infant Health Checkups — Eriko Takeda

採用 14.9.6

浜松医科大学助産学専攻科(教諭/助産師)

別刷請求先: 武田江里子 浜松医科大学助産学専攻科 〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1 Tel/Fax: 053-435-2510

子育て支援が行われてきているが、述べてきたように 育児不安はなかなか減少していない。これまでの子育 て支援の多くは外的要因(育児知識・技術の指導やサ ポート体制, 仕事との両立等)への働きかけが主であっ たことから、外的要因だけでは有効な支援としては不 足しているということではないだろうか。内的要因(意 識や認識等)への働きかけの必要性を示唆している研 究6 もあり、今後は外的要因・内的要因の両面からの 働きかけを意識することが必要と言える。そのために は、内的要因として母親の養育者としての発達状況を アセスメントすることが必要と筆者は考え、養育者と しての発達状況を測定するための尺度を開発した^{7,8)}。 ほとんどの母親が受診する乳幼児健診の場面で、養育 者としての発達状況をアセスメントするための一手段 として用いることで,内的要因への支援に繋がると期 待できる。

本研究の目的は、健診時のリスク群抽出のアセスメントツールの一つとして活用しやすいよう尺度短縮版の作成を試み、その信頼性と妥当性を検討することである。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査期間および調査対象

①2010年7~10月に2つの病院および2市での乳幼児健診のために来所し調査同意の得られた母親1,823名,②2011年7~11月に3市での乳幼児健診のために来所し調査同意の得られた母親1,015名を対象とした。対象者の内訳は、産後1か月、6~7か月、1年6か月の母親となっている。筆者ら780の研究結果より、「愛着-養育バランス」尺度の6因子は出産歴や母親になってからの時期に影響は受けるが、6因子の傾向(愛着的因子が低く、養育的因子が高い)は同様であることから、短縮版の作成においては出産歴や時期等を分ける必要性はないと判断し、全体データを使用することとした。

2. 調査方法

①,②とも健診受付および待ち時間に依頼文と調査票を配布し、待ち時間に記載のできた方は回収箱にて回収し、それ以外の方は郵送にて回収した。

①では、「愛着 - 養育バランス」尺度の開発として、 尺度の構成因子および下位項目の抽出を行い、6因子 30項目の尺度としての信頼性・妥当性について検討し、 その結果については公表済みである⁷⁸⁰。②では、健診時に同意の得られた母子の健診時の問診票の内容を健診後に別紙に転記した。健診場面で活用するためには尺度項目が30項目では多いとの指摘から短縮版の作成を試み、信頼性と妥当性を検討した。

3. 調査内容

①では「愛着 - 養育バランス」尺度開発までの調査 を行った^{7,8)}。

「愛着 - 養育バランス」尺度は、親の養育者としての発達を「愛着システムから養育システムへのシフト」 9.101 と捉え、その発達状況を測定する尺度である。尺度は、構成概念を【適応】、【敏感性】、【親密性】の3つの視点から捉え、3因子それぞれの「愛着的因子」、「養育的因子」を抽出し3因子6要素(以後、6因子と記載)からなる30項目(1因子5項目の計30項目)で構成される。信頼性・妥当性は検証済みである7.80。なお、本研究における30項目のクロンバックのα係数は0.89であった(愛着的因子と養育的因子の分布は2層性を呈するため、養育的因子の項目は逆点して算出した)。

②では、「愛着-養育バランス」尺度と健診時の問診票の内容の中からく気になる>母親の内容として、3市で問診票の内容が異なるため、A市では「育児に対する今の気持ち」、B市では「育児に対するイメージ」と「虐待の認識」、C市では「育児の楽しさ」を調査内容とし、その他に3市とも保健師の自由記載欄に書かれた内容を参考にした。

4. 分析方法

- 1)「愛着 養育バランス」尺度の30項目の四分位を 箱ひげ図にし、分布を確認した。
- 2) 短縮版の作成:①,②の対象者の「愛着 養育 バランス」尺度30項目を以下の手順にて12項目に絞り 込んだ。
 - (1) 愛着的因子の項目については、「4: どちらとも言えない」~「7: よく当てはまる」の高い点数を逸脱項目、養育的因子の項目については、「4: どちらとも言えない」~「1: 全く当てはまらない」の低い点数を逸脱項目とした。
 - (2) 各因子 5 項目から 2 項目ずつ組み合わせ、 2 項目のうちどちらか 1 項目でも逸脱していたら逸脱項目群とした。
 - (3) 各因子2項目ずつの10パターンそれぞれの「逸

脱項目群/非逸脱項目群」と、その因子(5項目の合算)の「逸脱群/非逸脱群」とをクロス集計し感度と特異度を算出した。なお、各因子(5項目の合算)の逸脱群は、箱ひげ図を参考にそれぞれの因子の四分位から設定した。愛着的因子は75パーセンタイル以上を逸脱群、養育的因子は25パーセンタイル以下を逸脱群とした。

- (4) 6 因子ごとに全体/逸脱群/非逸脱群それぞれの IT 相関を行った。愛着的因子については,逸脱群では相関の高い項目ほどその逸脱に影響していると考え,非逸脱群では相関の低い項目ほど逸脱しない方に影響していると判断した。養育的因子については,逸脱群では低い相関である項目ほどその項目の逸脱に影響していると考え,非逸脱群では高い相関ほど逸脱しないことに影響していると判断した。
- (5) それぞれの結果を合わせて各因子2項目ずつの 12項目を短縮版の項目として抽出した。
- 3) 尺度短縮版の妥当性は、各市の<気になる>母親とそれ以外の母親について「愛着-養育バランス」 6 因子の独立サンプルのt検定を行い、<気になる>

母親の抽出に役立つかで判断し、信頼性はクロンバックの α 係数で確認した。統計処理には PASW Statistics 18.0を用い、有意水準は 5 %未満とした。

5. 倫理的配慮

所属する大学の倫理委員会(承認番号:22-31,23-01)と調査協力先の承諾を得て実施した。研究目的,プライバシーの保護,研究協力は自由意思であること,辞退に際して不利益のないことを書面にて説明し,同意を得たうえで行った。

Ⅲ. 結果

1. 「愛着 - 養育バランス」尺度30項目の分布

図に30項目の箱ひげ図を示した。7件法の尺度なので4を中央に見てみると、【適応】、【敏感性】、【親密性】のどの因子においても概ね愛着的因子は低く、養育的因子は高く分布した。

2. 「愛着 - 養育バランス」尺度の12項目の選出

①の対象者のうち1,002名(回収率55.0%)から返信があり、そのうち有効回答が得られたのは974名(有

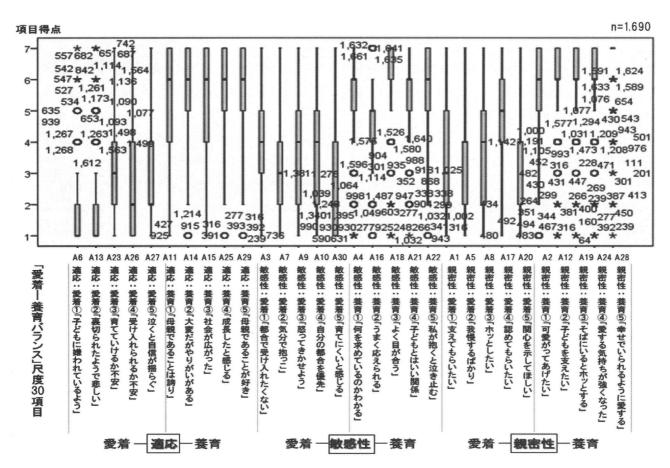


図 「愛着-養育バランス」30項目の分布(箱ひげ図)

表1 各因子の短縮版2項目と全体版(5項目)の逸脱群との感度・特異度

n=1.690

		n=1,690			
6 因子	30項目(下線が短縮版)	選出した2項目 の感度・特異度			
適応愛着	6 子どもに嫌われているように感じる				
	13 子どもに裏切られたように感じて悲しくなることがある				
	23 子どもを育てていけるか不安である	89.7 · 74.1			
	26 子どもに受け入れられるか不安である				
	27 子どもが泣くと母親としての自信が揺らぐ				
	11 母親であることを誇りに思っている				
適応 養育	14 子育ては大変ではあるが、それ以上にやりがいを感じる				
	15 子どもを持って、今まで以上に社会が広がった	78.5 · 87.6			
	25 子どもを持って、自分は成長したと感じる				
	29 <u>母親であることが好きである</u>				
敏感性 愛着	3 自分の都合で子ども(の要求)を受け入れたくないときがある				
	7 自分のその時々の気分で抱っこすることがある				
	9 子どもが言うことをきかないと怒ってきかせようとすることがある	58.6 · 94.2			
	10 子どもより自分の都合を優先させることがある				
	30 <u>育てにくいと感じることがある</u>				
	4 子どもが何を求めているのかはわかる				
敏感性	16 子どもの求めていることにはうまく応えてあげられる				
養育	18 子どもとはよく目が合う	87.4 · 79.4			
RH 	21 <u>自分と子どもはいい関係を保てていると思う</u>				
	22 子どもは私に抱かれると、それまで泣き続けていても泣きやむと思う	920.			
親密性愛着	1 つらく感じて誰かに支えてもらいたい				
	5 子どものために我慢するばかりである				
	8 気の休まることがなくてホッとしたい	44.6 • 99.0			
	17 子育てを頑張っていることを誰かに認めてもらいたい				
	20 周囲はもっと私に関心を示してほしい				
	2 常に子どもと一緒にいて可愛がってあげたい				
親密性	12 子どものためなら、どんなことをしても支えていきたい				
養育	19 <u>子どもがそばにいるとホッとする</u>	82.5 · 82.6			
	24 子どもを持って今までにないくらい愛する気持ちが強くなった				
	28 子どもが幸せでいられるように愛してあげたい				

効回答率97.2%)であった。②の対象者は752名(回収率74.1%)から返信があり、そのうち有効回答が得られたのは716名(有効回答率95.2%)であった。①と②の合計1,690名を分析対象とした。産後1か月の母親が365名、産後6~7か月が423名、産後1年6か月が902名であった。

各因子2項目の逸脱項目群/非逸脱項目群とその因子全体(5項目)の逸脱群/非逸脱群の感度・特異度の結果(表1)とIT相関の結果(表2)を照らし合わせ短縮版として2項目を選出した。表1には30項目および選出した2項目とその感度・特異度を示した。なお、相関の高い・低いは選出した2項目とその因子の中の他項目の相関係数を比べて述べていく。

【適応:愛着】では逸脱群の相関の高さ(r = .560** $\sim .578**$)と非逸脱群の相関の低さ($r = .313* \sim .340*$)から「6. 子どもに嫌われているように感じる」と「13. 子どもに裏切られたように感じて悲しくなることがある」の 2 項目を選出した。なお,この 2 項目は外れ値も多かった。【適応:養育】では逸脱群の相関の低さ(r

= .445**) と非逸脱群の相関の高さ (r = .623**) から 「14. 子育ては大変ではあるが、それ以上にやりがいを 感じる」と、感度・特異度から「29. 母親であること が好きである」の2項目を選出した。【敏感性:愛着】 では非逸脱群の相関の低さ $(r = .408** \sim .436**)$ と 感度・特異度から「7. 自分のその時々の気分で抱っこ することがある」と「30. 育てにくいと感じることが ある」の2項目を選出した。【敏感性:養育】では逸 脱群の相関の低さ(r = .473**)と非逸脱群の相関の 高さ(r = .573**)から「21. 自分と子どもはいい関係 を保てていると思う」と感度・特異度から「4.子ども が何を求めているのかはわかる」の2項目を選出した。 【親密性:愛着】では逸脱群の相関の高さ(r = .453** ~ 496**) と非逸脱群の相関の低さ (r = .535**~ .567**) および感度・特異度から「1. つらく感じて誰かに支え てもらいたい」と「8. 気の休まることがなくホッとし たい」の2項目を選出した。この因子は外れ値もなく 逸脱群と非逸脱群での差が少ない因子であった。【親 密性:養育】ではIT 相関の結果は「2. 常に子どもと

表 2 6 因子ごとの各因子 5 項目の IT 相関(全体/逸脱群/非逸脱群)

n=1690

						11-1,090		
		A6適応:愛着① A13適応:愛着②		A23適応:愛着③	A26適応:愛着④	A27適応:愛着⑤		
適応	全体	.667**	.659**	.725**	.796**	.727**		
	逸脱群	.560**	.578**	.471**	.563**	.490**		
愛着	非逸脱群	.340*	.313*	.534**	.567**	.523**		
		A11適応:養育①	A14適応:養育②	A15適応:養育③	A25適応:養育④	A29適応:養育⑤		
適応 養育	全体	.730**	.776**	.702**	.709**	.741**		
	逸脱群	.458**	.445**	.466**		.518**		
	非逸脱群	.576**	.623**	.573** .545**		.561**		
敏感性 愛着		A3敏感性:愛着①	A7敏感性:愛着②	A9敏感性:愛着③	A10敏感性:愛着④	A30敏感性: 愛着⑤		
	全体	.762**	.655**	.741**	.725**	.615**		
	逸脱群	.486**	.447**	.446**	.498**	.411**		
	非逸脱群	.669**	.436**	.592**	.575**	.408**		
		A4敏感性:養育①	A16敏感性:養育②	A18敏感性:養育③	A21敏感性:養育④	A22敏感性:養育⑤		
敏感性 養育	全体	.680**	.723**	.679**	.751**	.736**		
	逸脱群	.480**	.475**	.583**	.473**	.596**		
	非逸脱群	.491**	.642**	.368*	.573**	.469**		
		A1親密性:愛着①	A5親密性:愛着②	A8親密性:愛着③	A17親密性:愛着④	A20親密性:愛着⑤		
親密性 愛着	全体	.709**	.700**	.733**	.664**	.674**		
	逸脱群	.453**	.434**	.496**	.435**	.480**		
	非逸脱群	.535**	.564**	.567**	.600**	.592**		
		A2親密性:養育①	A12親密性:養育②	A19親密性:養育③	A24親密性:養育④	A28親密性:養育⑤		
親密性 養育	全体	.704**	.754**	.755**	.757**	.600**		
	逸脱群	.332*	.531**	.537**	.535**	.463**		
	非逸脱群	.611**	.575**	.599**	.552**	.339*		

※ が短縮版として選出した2項目

**p<.01, *p<.05

一緒にいて可愛がってあげたい」が逸脱群で相関が低く $(r=.332^*)$, 非逸脱群で相関が高かった $(r=.611^{**})$ が、感度・特異度の結果も考慮し「19.子どもがそばにいるとホッとする」と「24.子どもを持って今までにないくらい愛する気持ちが強くなった」の 2 項目を選出した。

短縮版として選出した12項目のクロンバックの α 係数は, 0.81 (養育的因子の項目は逆点して算出) であった。

3.3市の乳幼児健診の<気になる>母親と尺度との関係

②の対象者716名は、健診時の問診票の転記ができた対象であり、A市269名(1歳6か月児健診)、B市223名(1歳6か月児健診)、C市224名(6~7か月児健診)であった。

A市では「育児に対する今の気持ち」を描かれた 母親の表情(笑顔から泣き顔までの5段階)の中から 選ぶようになっており、3番目の「何とも言えない表 情」から「泣き顔」までの3つの表情を選んだ母親 29名(全体の10.8%)、および保健師の自由記載欄に 「フォロー」等の言葉が書かれていた母親59名(全体 の21.9%)を<気になる>母親とした。表情の悪い母 親と「フォロー」の母親では重複もみられたため、該 当したのは80ケース(全体の29.7%)であった。B市 では「育児に対するイメージ」としてプラスイメージ 4項目とマイナスイメージ4項目から該当するイメー ジを選ぶようになっており、マイナスイメージを選ん だ母親74名(複数回答)、および「虐待の認識」とし て「虐待をしていると感じている」もしくは「何とも 言えない」と回答した母親34名(全体の15.2%), そ して保健師の自由記載欄に「フォロー」等の言葉が書 かれていた母親43名(全体の19.3%)を<気になる> 母親とした。重複する母親がいるため、該当したのは 70ケース(全体の31.4%)であった。C市では「育児 の楽しさ」を3件法で問うており、「楽しくない」も しくは「どちらとも言えない」を選んだ母親22名(全 体の9.8%)、および保健師の自由記載欄に「フォロー」 等の言葉が書かれていた母親81名(全体の36.2%)を <気になる>母親とした。重複する母親がいるため. 該当したのは80ケース(全体の35.7%)であった。

いずれの市においても<気になる>母親とそれ以外を比べると、6因子すべてにおいて全体版5項目でも短縮版2項目での有意差が認められた。【適応:愛着】、【敏感性:愛着】、【親密性:愛着】の愛着的因子では<気になる>母親が有意に高く、【適応:養育】、【敏感性:養育】、【親密性:養育】の養育的因子では<気になる>母親が有意に低かった(表3)。

		A市 (n=269) B市 (n=223)				C市 (n=224)				
		気になる母親 (n=80)	それ以外 (n=189)	t 値	気になる母親 (n=70)	それ以外 (n=153)	t 値	気になる母親 (n=80)	それ以外 (n=144)	t 值
全体版	(5項目)	13.0	10.5	3.48**	14.1	10.1	5.64***	15.9	13.7	4.53***
短縮版	(2項目)	4.0	3.2	2.89**	3.9	3.1	2.66**	4.0	2.9	4.27***
全体版	(5項目)	27.6	29.8	-3.70***	25.6	28.7	-3.78***	27.2	29.9	-4.12***
短縮版	(2項目)	11.6	12.4	-3.19**	10.8	12.0	-3.70***	11.4	12.6	-4.34***
全体版	(5項目)	19.0	16.4	3.69***	21.8	17.2	6.44***	16.0	13.8	2.94**
短縮版	(2項目)	6.6	5.0	4.47***	7.6	5.3	6.72***	5.9	5.1	2.40*
全体版	(5項目)	27.6	29.5	-3.94***	27.1	28.9	-3.42**	27.6	29.5	-3.96***
短縮版	(2項目)	11.0	11.8	-3.90***	10.7	11.6	-4.06***	10.8	11.6	-3.90***
全体版	(5項目)	20.4	17.2	4.34***	20.9	17.5	4.45***	18.0	16.2	2.42*
短縮版	(2項目)	8.0	5.6	6.72***	8.3	6.0	5.83***	6.9	5.5	3.63***
全体版	(5項目)	30.2	31.5	-2.74**	29.3	31.0	-2.80**	30.2	32.5	-4.61***
短縮版	(2項目)	11.9	12.6	-2.98**	11.6	12.3	-2.33^{*}	11.9	12.9	-3.89***
	短全短全短全短全短全短全短 全短 全短 全短 全短 全短 全短 的 版 版 版 版 版 版 版 版 版 版 版 版	短縮版 (2項目) 全体版 (5項目) 短縮版 (2項目) 全体版 (5項目) 短縮版 (2項目) 短縮版 (2項目) 全体版 (5項目) 短縮版 (2項目) 全体版 (5項目)	全体版(5項目) 13.0 短縮版(2項目) 4.0 全体版(5項目) 27.6 短縮版(2項目) 11.6 全体版(5項目) 19.0 短縮版(2項目) 6.6 全体版(5項目) 27.6 短縮版(2項目) 11.0 全体版(5項目) 20.4 短縮版(2項目) 8.0 全体版(5項目) 30.2	気になる母親 (n=80)それ以外 (n=189)全体版 (5項目)13.010.5短縮版 (2項目)4.03.2全体版 (5項目)27.629.8短縮版 (2項目)11.612.4全体版 (5項目)19.016.4短縮版 (2項目)6.65.0全体版 (5項目)27.629.5短縮版 (2項目)11.011.8全体版 (5項目)20.417.2短縮版 (2項目)8.05.6全体版 (5項目)30.231.5	気になる母親 (n=89) され以外 (n=189) t値 全体版(5項目) 13.0 10.5 3.48*** 短縮版(2項目) 4.0 3.2 2.89*** 全体版(5項目) 27.6 29.8 -3.70*** 短縮版(2項目) 11.6 12.4 -3.19*** 全体版(5項目) 19.0 16.4 3.69*** 短縮版(2項目) 6.6 5.0 4.47*** 全体版(5項目) 27.6 29.5 -3.94*** 短縮版(2項目) 11.0 11.8 -3.90*** 全体版(5項目) 20.4 17.2 4.34*** 短縮版(2項目) 8.0 5.6 6.72*** 全体版(5項目) 30.2 31.5 -2.74**	気になる母親 (n=80) それ以外 (n=189) t 値 (n=70) 気になる母親 (n=70) 全体版 (5項目) 13.0 10.5 3.48** 14.1 短縮版 (2項目) 4.0 3.2 2.89** 3.9 全体版 (5項目) 27.6 29.8 -3.70*** 25.6 短縮版 (2項目) 11.6 12.4 -3.19** 10.8 全体版 (5項目) 19.0 16.4 3.69*** 21.8 短縮版 (2項目) 6.6 5.0 4.47*** 7.6 全体版 (5項目) 27.6 29.5 -3.94*** 27.1 短縮版 (2項目) 11.0 11.8 -3.90*** 10.7 全体版 (5項目) 20.4 17.2 4.34*** 20.9 短縮版 (2項目) 8.0 5.6 6.72*** 8.3 全体版 (5項目) 30.2 31.5 -2.74** 29.3	気になる母親 (n=80) それ以外 (n=189) t値 (n=70) 気になる母親 (n=70) それ以外 (n=153) 全体版(5項目) 13.0 10.5 3.48*** 14.1 10.1 短縮版(2項目) 4.0 3.2 2.89*** 3.9 3.1 全体版(5項目) 27.6 29.8 -3.70**** 25.6 28.7 短縮版(2項目) 11.6 12.4 -3.19*** 10.8 12.0 全体版(5項目) 19.0 16.4 3.69**** 21.8 17.2 短縮版(2項目) 6.6 5.0 4.47**** 7.6 5.3 全体版(5項目) 27.6 29.5 -3.94**** 27.1 28.9 短縮版(2項目) 11.0 11.8 -3.90**** 10.7 11.6 全体版(5項目) 20.4 17.2 4.34**** 20.9 17.5 短縮版(2項目) 8.0 5.6 6.72**** 8.3 6.0 全体版(5項目) 30.2 31.5 -2.74*** 29.3 31.0	気になる母親 (n=80) それ以外 (n=189) t値 気になる母親 (n=70) それ以外 (n=153) t値 全体版 (5項目) 13.0 10.5 3.48*** 14.1 10.1 5.64*** 短縮版 (2項目) 4.0 3.2 2.89** 3.9 3.1 2.66** 全体版 (5項目) 27.6 29.8 -3.70*** 25.6 28.7 -3.78*** 短縮版 (2項目) 11.6 12.4 -3.19*** 10.8 12.0 -3.70**** 全体版 (5項目) 19.0 16.4 3.69*** 21.8 17.2 6.44**** 短縮版 (2項目) 6.6 5.0 4.47**** 7.6 5.3 6.72**** 全体版 (5項目) 27.6 29.5 -3.94*** 27.1 28.9 -3.42** 短縮版 (2項目) 11.0 11.8 -3.90*** 10.7 11.6 -4.06*** 全体版 (5項目) 20.4 17.2 4.34*** 20.9 17.5 4.45*** 短縮版 (2項目) 8.0 5.6 6.72*** 8.3 6.0 5.83**** 全体版 (5項目) 30.2 31.5 -2.74** 29.3 31.0 -2.80** <	気になる母親 (n=80) それ以外 (n=189) t値 気になる母親 (n=70) それ以外 (n=153) t値 気になる母親 (n=80) 全体版 (5項目) 13.0 10.5 3.48*** 14.1 10.1 5.64**** 15.9 短縮版 (2項目) 4.0 3.2 2.89*** 3.9 3.1 2.66*** 4.0 全体版 (5項目) 27.6 29.8 -3.70**** 25.6 28.7 -3.78**** 27.2 短縮版 (2項目) 11.6 12.4 -3.19*** 10.8 12.0 -3.70**** 27.2 短縮版 (5項目) 19.0 16.4 3.69**** 21.8 17.2 6.44**** 16.0 短縮版 (2項目) 6.6 5.0 4.47**** 7.6 5.3 6.72**** 5.9 全体版 (5項目) 27.6 29.5 -3.94**** 27.1 28.9 -3.42*** 27.6 短縮版 (2項目) 11.0 11.8 -3.90**** 10.7 11.6 -4.06**** 10.8 全体版 (5項目) 20.4 17.2 4.34**** 20.9 17.5 4.45**** <td>気になる母親 (n=80) t値 気になる母親 (n=153) t値 気になる母親 (n=80) それ以外 (n=144) 全体版 (5項目) 13.0 10.5 3.48*** 14.1 10.1 5.64**** 15.9 13.7 短縮版 (2項目) 4.0 3.2 2.89*** 3.9 3.1 2.66*** 4.0 2.9 全体版 (5項目) 27.6 29.8 -3.70**** 25.6 28.7 -3.78**** 27.2 29.9 短縮版 (2項目) 11.6 12.4 -3.19*** 10.8 12.0 -3.70**** 27.2 29.9 短縮版 (2項目) 19.0 16.4 3.69**** 21.8 17.2 6.44**** 16.0 13.8 短縮版 (2項目) 6.6 5.0 4.47**** 7.6 5.3 6.72**** 5.9 5.1 全体版 (5項目) 27.6 29.5 -3.94**** 27.1 28.9 -3.42*** 27.6 29.5 短縮版 (2項目) 11.0 11.8 -3.90**** 10.7 11.6 -4.06**** 10.8 11.6 全体版 (5項</td>	気になる母親 (n=80) t値 気になる母親 (n=153) t値 気になる母親 (n=80) それ以外 (n=144) 全体版 (5項目) 13.0 10.5 3.48*** 14.1 10.1 5.64**** 15.9 13.7 短縮版 (2項目) 4.0 3.2 2.89*** 3.9 3.1 2.66*** 4.0 2.9 全体版 (5項目) 27.6 29.8 -3.70**** 25.6 28.7 -3.78**** 27.2 29.9 短縮版 (2項目) 11.6 12.4 -3.19*** 10.8 12.0 -3.70**** 27.2 29.9 短縮版 (2項目) 19.0 16.4 3.69**** 21.8 17.2 6.44**** 16.0 13.8 短縮版 (2項目) 6.6 5.0 4.47**** 7.6 5.3 6.72**** 5.9 5.1 全体版 (5項目) 27.6 29.5 -3.94**** 27.1 28.9 -3.42*** 27.6 29.5 短縮版 (2項目) 11.0 11.8 -3.90**** 10.7 11.6 -4.06**** 10.8 11.6 全体版 (5項

表3 各市の<気になる>母親とそれ以外の母親の6因子の平均値の比較

***p<.001, **p<.01, *p<.05

Ⅳ. 考 察

【適応】、【敏感性】、【親密性】のいずれにおいても 愛着的因子は低く、養育的因子は高いという2層性の 傾向を示したことより. 逸脱群の設定を愛着的因子は 75パーセンタイル以上、養育的因子は25パーセンタイ ル以下としたことは妥当と考える。感度・特異度は二 律背反であり感度が増して真陽性率が増えると真陰性 の数は減少する。つまり、そのバランスが大切と言わ れている110。産後うつ病のリスクスクリーニングとし てよく用いられるエジンバラ産後うつ病自己評価票 (EPDS) のカットオフポイントの設定の際に、感度 75, 特異度93で高い妥当性と評価している120。本研究 における感度・特異度は【敏感性:愛着】と【親密性: 愛着】の感度以外は、74.1~99.0と高い値を得られて おり,リスク群の抽出に役立つことが示唆された。【敏 感性:愛着】(感度58.6, 特異度94.2) と【親密性:愛着】 (感度44.6, 特異度99.0) については、特異度の高さか らリスクの低い対象についてははっきりと示すことが できると言える。この2つの因子は、感度が低いとい うことは誰にでもある気持ちであると言えるが、 <気 になる>母親では有意に高いことから、逸脱点数に該 当した対象については実際はどうなのかの見極めが必 要ということを意味している。限られた問診時間の中 で自ら訴えることができる母親ばかりではないことを 考えると、表出された気持ちだけでは判断できない難 しさがある。そこで例えば、逸脱した項目に対して「育 てにくいと感じることがある【敏感性:愛着】のはど のような時ですか」とか、「そのときはどのようなお 気持ちになりますか」等、話の糸口として聞いていく

ことでより母親の気持ちを聞き取ることができ、実際にフォローが必要なのかどうなのかの見極めができると思われる。母親自身、健診は「児の身体異常や発達に関する相談をするところ」という認識が高いため¹³⁾、こちらが意識して関わらないと母親自身の気持ちの抽出は難しいと考える。

IT 相関では、基本的に愛着的因子は逸脱群では相関が高く非逸脱群では相関の低い項目を選出し、養育的因子は逸脱群では相関が低く非逸脱群では相関の高い項目を選出しようと試みた。両方とも高い相関の場合は全体の傾向であると考えられるため、全体の相関も確認し選出項目としては適さないと考えた。感度・特異度の結果と IT 相関の結果は全く同じにはならなかったが、概ね合致したことから妥当な選出と判断した。選出した12項目のクロンバックの α 係数の値から内的整合性は確保できたと言える。

リスク群の抽出のための短縮版という認識から<気になる>母親との比較をしたが、全体版(各因子5項目)でも短縮版(各因子2項目)でも有意差が認められたことより、リスク群の抽出に役立つ可能性が示唆され、基準関連妥当性も確保できたと考える。今後はリスク群の抽出にとどまらず、6因子の各特徴からどのような支援が効果的か介入研究を行いながら確認し、支援策の構築に繋げていきたい。

本研究の限界としては、<気になる>母親が書面から得られたデータであるため、実際の健診場面でアセスメントツールとして役立つかは、今後調査をすすめながら確認していく必要があるということである。さらに、健診場面でいかに効率よく使えるかを検討していくことが課題である。

V. 結 論

信頼性および妥当性が確認できたことより,「愛着 - 養育バランス」尺度短縮版の活用はリスク群の抽出に役立つ可能性が示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。

本研究は平成23~25年度科学研究費補助金挑戦的萌芽研究(課題番号23660061,「母親の養育者としての発達に関する研究-『愛着-養育バランス』尺度の活用」)を受けて実施した研究の一部である。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 中村 敬. 乳幼児健康診査の現状と今後の課題. 母子保健情報 2008;58:51-58.
- 2) 社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会.子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第9次報告).http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv37/index_9.htmlアクセス 2013.10.10.
- 望月由妃子,篠原亮次,杉澤悠圭,他.被虐待児の 育児環境の特徴と支援に関する研究.厚生の指標 2010;57(12):24-30.
- 4) 頭川典子. 市町村保健師による子ども虐待発生予防 の実態と今後の課題. 日本地域看護学会誌 2006:8 (2):73-78.
- 5) 厚生労働省.「健やか親子21」第2回中間評価報告書. http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/s0331-13a. html アクセス2011.04.11.
- 6) 眞崎由香,田村知栄子, 奥富庸一,他. SAT 療法による乳幼児をもつ母親の育児不安への支援. ヘルスカウンセリング学会年報 2012;18:1-9.
- 7) 武田江里子,小林康江,加藤千晶. 母親の子どもに対する「愛着 養育バランス」尺度の開発 第1報―母親から子どもへの「愛着」「養育」の構成因子の抽出―. 日本看護科学会誌 2012:32(1):30-39.
- 8) 武田江里子,小林康江,加藤千晶. 母親の子どもに対する「愛着 養育バランス」尺度の開発 第2報一尺度としての信頼性と妥当性一. 日本看護科学会誌2012:32(4):22-31.

- George C, Solomon J. Representational models of relationship. Links between caregiving and attachment. Infant Mental Health Journal 1996; 17: 198-217.
- 10) 数井みゆき,遠藤利彦. アタッチメント―生涯にわたる絆. 京都:ミネルヴァ書房, 2005:174-208.
- 11) Polit DF, Beck CT. /近藤潤子監訳. Nursing Research Principles and Methods /看護研究—原理と方法—(第2版). 東京:医学書院, 2008 / 2010:443.
- 12) 岡野禎治,村田真理子,増地聡子,他. 日本版エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)の信頼性と妥当性.精神科診断学 1996;7(4):525-533.
- 13) 三品浩基, 竹中加奈枝, 島添淳子, 他. 個別乳幼児 健康診査で母親が希望する保健相談内容の検討. 小 児科診療 2011;74(6):138-142.

(Summary)

A compact version of the "Attachment-Caregiving Balance" scale, which was created to measure the development of mothers as caregivers, was devised and its reliability and validity evaluated so it could be used to extract risk groups during infant health checkups. The subjects were mothers who brought their infant for a health exam. There were 1.690 who took the short version, and 716 were utilized to examine its reliability and validity. To create the short version, 2 items from each factor were selected from the results of the sensitivity/ specificity and IT correlations regarding deviation scores for each factor. Cronbach's coefficient alpha for the selected 12 items was 0.81. Scale scores were compared between the "mothers of concern" and other mothers at the health checkup, and validity was confirmed through the recognition of significant difference in all 6 factors, indicating the possibility of usefulness in extracting risk groups.

(Key words)

attachment, caregiving, scale, mothers who causes anxiety